

こちら 子どもスポーツ診療室

サッカーやバスケットボールのプレー中に転倒し、地面に手をつくなどして手首に激しい痛みを感じたら、骨端線と呼ばれる軟骨組織を損傷した可能性がある。骨端線は、子どもの骨を発育させる大切な役割があり、完治させなければ将来の骨の成長に影響が出る恐れがある。徳島県鳴門病院整形外科の佐藤亮祐医長に症状や治療法を聞いた。



佐藤亮祐医長

骨端線は大人になるにつれてなくなっていく、これに伴い骨の成長も止まる。骨端線損傷は子どもに特有のけがだ。

損傷の部位は手首が最も起きやすく、約4割を占める。前腕には太い橈骨と細い尺骨があり、子どもが転倒して手をついたとき、手首の位置にある橈骨の骨端線を痛めてしまう場合が多い。骨端線は周囲の骨に比べて柔らかく、衝撃によるダメージを受けやすいためだ。6〜10歳の子どもは

外で遊ぶ機会が増え、日常でも起きやすくなる。症状は手首がはれて我慢できないほどの痛みや腫れを伴うことが多い。手がフラフラして力が入らず、もう一方の手の支えが必要になる。神経が圧迫されて指がしびれることもある。水平に置いたフォークを横から見たように変形することが多く、気付いたら直ちに整形外科を受診してほしい。

治療はまず、エックス線検査で損傷した部位を確認する。骨端線がずれただけでなく、骨折を伴う場合が多い。

骨端線のずれが少なければ、ギプスで固定するのが一般的だ。ただ、ギ

治癒後の定期検査が大切

20



橈骨骨端線(矢印)を損傷した女児(左)と正常なエックス線写真(右)

プスでは十分に整復できなかったり、再度ずれたりする場合は、ワイヤを使って固定する手術が必要になる。手術に要する時間は30分程度。

回復には、骨端線が元の位置で固定されるまでに1カ月ほど見込む必要がある。周囲の骨も折れていれば、3カ月ほどかかることもある。

注意してほしいのは、いったん治癒したからといって安心してできない点だ。骨を成長させる骨端線にダメージを受けたので、本来よりも早く成長が止まる早期閉鎖になる恐れがある。痛みやすぐに変形が起きるわけではなく、保護者が観察していても気付きにくい。専門医による定期的な検査

が必要だ。骨端線が早期閉鎖すると、その部分と成長を続ける周囲の骨のバランスが崩れ、変形や運動機能障害の原因になる。骨端線を損傷したことがある子どもの5〜10%が早期閉鎖のリスクがあるとのデータもあり、見過ごすことはできない。

子どもは成長が早く、骨端線損傷の影響がどの程度残るのか、先々まで見通すのは難しい。しかし、定期検査を受けていれば早期発見につながり、機能障害を未然に防ぐことができる。第2成長期が終わる15歳ぐらいまでは、半年に1度は専門医に診てもらおうようにしよう。

骨端線損傷

山口和也